

IODP& “ちきゅう” 広報、普及展開計画案

－短期・中長期ロードマップ案－

海洋科学技術センター

平成 16 年 3 月 12 日

－ 目 次 －

I : IODP& “ちきゅう” 広報、普及展開計画案の基本要件

II. インターネットを用いた広報戦術案

III. 起爆剤の活用計画案

III-1. 起爆剤活用戦略

III-2. 活用企画案

IV. 初年度活動計画案

参考資料1 : イベントの一例 : “ちきゅう” 一般公開 (案)

参考資料2 : 教育系イベントの一例 : 「IODP 大学&科学館キャンペーン (案)」

I : IODP& “ちきゅう” 広報、普及展開計画案の基本要件

1. 目的

目的は、統合国際深海掘削計画 (IODP) の意義及び科学研究成果の広報・普及活動を通じ、国民各層の IODP に対する認知度を高めることである。このため、地球科学、生命科学及び海洋科学に関する国民個人の関心を喚起するとともに、国民個人の能動的なアプローチを可能にすることにより、広報主体と対象 (国民) との双方向コミュニケーションを促進し、いわば「IODP サポーター」と言える層を増強し、国民と一体となったプロジェクトの推進を目的とする。

2. 戦略 (スローガン)

(1) 「ちきゅう」を超一流科学研究所とする。

(一流研究者が集い、地球科学、生命科学などに関する最先端の研究が行われる拠点とする。)

(2) 「ちきゅう」を先端技術開発研究所とする。

(科学掘削船の運用及び科学研究に関する先端科学技術を開発・試験・実用化する拠点とする。)

(3) 「ちきゅう」を生涯学習教室にする。

(国民各層に対応した教育素材を提供し、科学への好奇心が喚起されるような学習の場とする。)

(4) 「ちきゅう」を情報エンターテイメント生産工場にする。

(特殊船である「ちきゅう」そのもの及び「ちきゅう」によってもたらされる科学成果を、エンターテイメントへ応用し、常に新しいアイデア及びニュースソースを提供する場とする。)

3. 戦術

インターネットを広報戦術の核とし、発信元が主体的に情報を提供でき、かつ国民が能動的に IODP 及び「ちきゅう」の知識を取得できる体制を構築する。また、国民が能動的に情報を取得する動機付けを行うために、マスメディア、各種イベント等 (起爆剤) を活用する。

(1) 発信元が制作する Web に、IODP 及び「ちきゅう」の情報を集約し、上記 2.戦略を具現化するきっかけを作る。

【インターネットを核にする利点】

- 主体性：発信元が主体的に情報を提供出来ること。また、従来のようなマスメディアによる受動的な情報入手方法によらず受信者が能動的に情報を入手できること。
- 迅速性：紙の出版物による情報と異なり、原稿が揃った時点ですぐに IODP 及び「ちきゅう」に関する情報を発信することができ、受信者がその情報を取得できること。
- 簡易性：IODP 及び「ちきゅう」と全く接点のない国民にとって、情報を入手できる唯一の窓口であること。
- 国際性：国際的に広がるネットワークであること。

【インターネットによる戦略の具現化】

- 「ちきゅう」の最新の科学成果の広報が、研究者や学生の IODP 及び「ちきゅう」関連研究への動機付けとなる。
→「ちきゅう」が超一流科学研究所となるきっかけ
- 極限環境で作業する「ちきゅう」と産業界との情報交換が新たな技術を生み出す。
→「ちきゅう」が先端技術開発研究所となるきっかけ
- 国民各層（教育者、学生、子供など）に対応した教材や、本計画に関する出版物、映像資料の発信を通じ、一般国民の教育をサポートする。
- 「ちきゅう」の活動報告や新発見情報提供を通じ、国民の間に科学技術に対する興味が喚起されることにより、科学コミュニティー・意見交換ネットワークの形成を触発する。
→「ちきゅう」が生涯学習教育の場となるきっかけ
- 「ちきゅう」を素材にしたエンターテインメント（ゲーム・コミック・小説など）の提供。
→「ちきゅう」が情報エンタテインメント生産工場になるきっかけ

結果的に IODP サポーターの増強につながる

(2)インターネット上に集約した IODP 及び「ちきゅう」の情報を普及させる起爆剤を活用する。

すなわち、起爆剤とは下記の 3 点であり、国民が能動的に、主にインターネットを通じて情報を収集しようとする“動機付け”となる。

- ・ イベントの開催（例：ちきゅう一般公開）
- ・ マスメディアからの情報提供
- ・ 各教育機関及び関連学会における普及広報活動（ポスター、各種模型、実物展示、パンフレット、冊子等の配布及び講演）

「ちきゅう」及び IODP 広報戦略基本構想

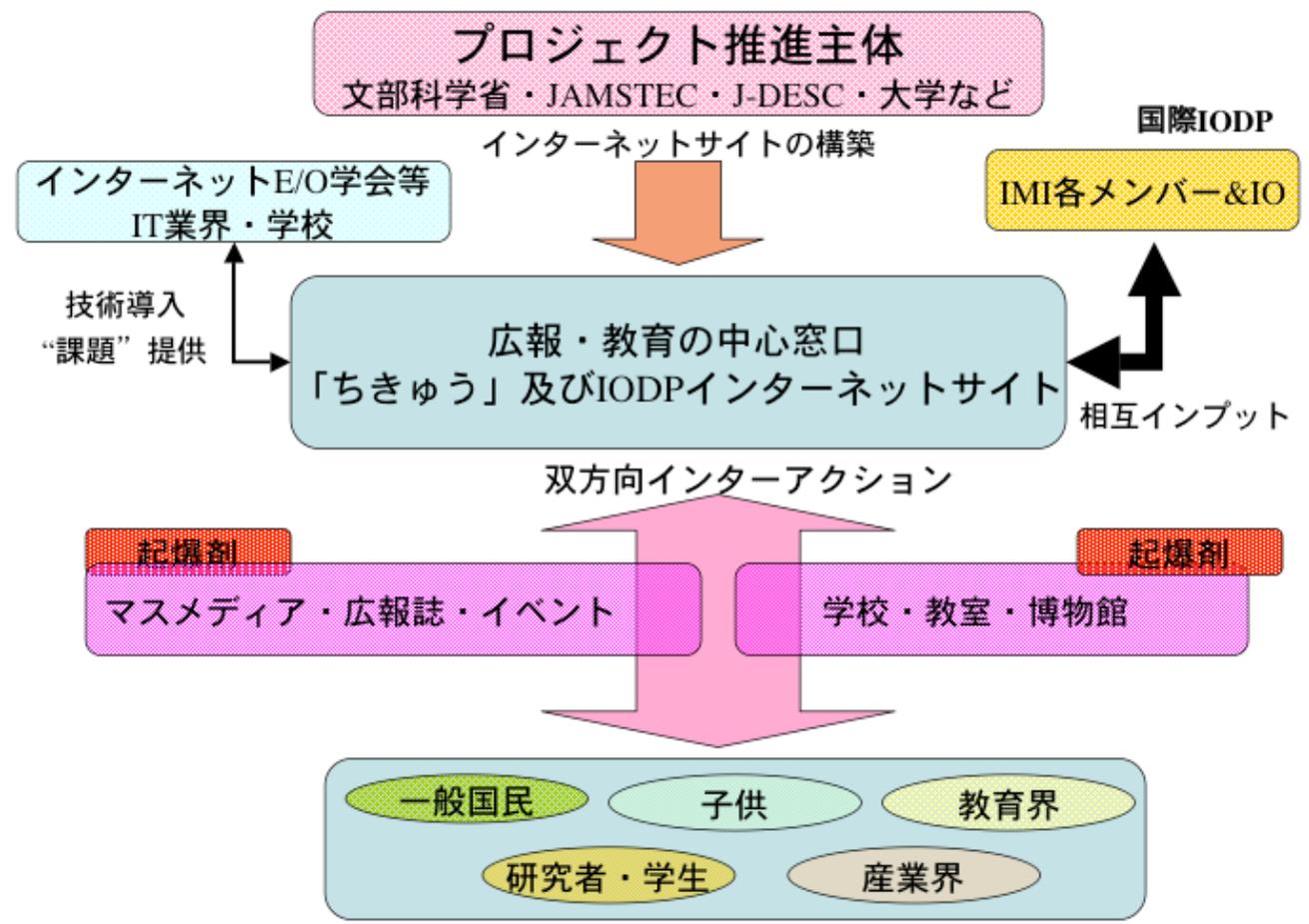


図 1

II. インターネットを用いた広報戦術案

1. 米航空宇宙局 (NASA) Web のレビュー

MEXT と NSF が主導する統合国際深海掘削計画 (IODP) は米航空宇宙局 (NASA)が現在実行中の火星探査計画と匹敵する巨大科学プロジェクトである。NASA の Web サイトには、関連する情報が集約されており、個人が必要としている情報を、Web にアクセスすることにより簡単に入手できる構造を持つ。

◎具体的に NASA の Web は以下の様な特徴を持つ。

- * 各個人のインターネット接続環境を考慮し、アクセスしやすい Web 環境を構築している。(例：動画をおさえたページへの切り替え)
- * Web 登録メンバー制があり、個人の趣向でページをカスタマイズできる。
- * アピールが強いデザインの使用

→**情報取得プロセス簡易化によるページアクセス人数の増加 (広い認知の促進)**

- * 各層 (子供、学生、教育者、メディア関係者) 用にそれぞれ専用のページがある。
- * 情報の更新が早く、各種トピックの最新情報が入手できる (例：最新の火星探査進展状況)。
- * メディア関係者及び一般人が簡単にアクセスできるような画像 (例：天体画像データ)、動画、読物を掲載している。
- * 質の高いエンターテイメントを掲載している。

→**一般人に対する普及広報、教育に対する貢献、研究者への知識・素材提供。発信者と受信者の相互コミュニケーションの成立。**

上記特徴は、IODP & 「ちきゅう」広報戦術と合致するところが多い。このため、IODP & 「ちきゅう」の Web を改良する際には、NASA の Web も参考としつつ実施することが望ましい。

2. IODP 及び「ちきゅう」Web 運用案

(改造・運用スケジュール概要は図2を参照。)

Web 運用については、Phase1 として“Web 改造期間(平成 16-17 年度)”、Phase2 として“Web 本格稼働期間(平成 18 年度～)”を設ける。

平成 18 年度頃の運用開始後、「ちきゅう」は国内外の海域における長期掘削作業が中心となり、国民との直接的な接点が少なくなる。その分「ちきゅう」と国民とをつなぐ主要な媒体としての Web の役割が拡大する。そのため、平成 18 年度頃の運用開始前(「ちきゅう」を実体として国民へ公開することのできる間)は、“Web 改造期間”とし、“Web 本格稼働”への準備期間とする。

○初年度(16 年度)は以下の通り Web の改良を進める。

【改良内容】

- 1) Web 全体の編成を組み直すこと。
- 2) 既存の Web は専門的な要素が多く、関係者以外にはやや難解である部分が多い。一般にも受け入れやすい HP に編成し直すこと。
- 3) 既存の Web は発信元が一方的に発信(掲載)しており、受信者との相互通行がほとんどない。受信者が HP を通して手に入れた素材が有効利用出来る、また、Web を介して受信者の意見が聞こえる工夫を図るなど、相互コミュニケーションがはかれるような HP に編成し直すこと。

インターネット及び起爆剤の活用計画

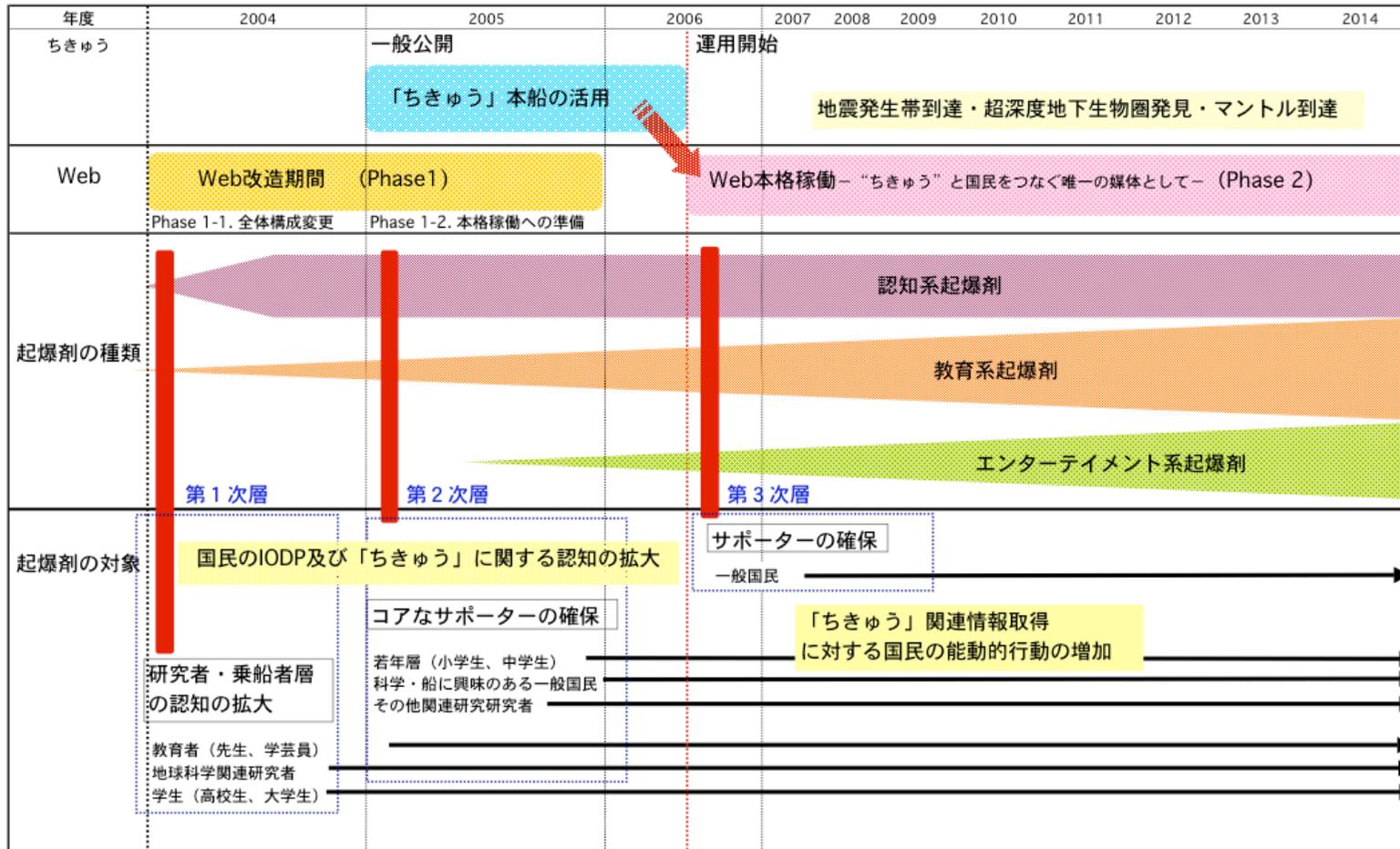


図 2

Ⅲ. 起爆剤の活用計画案

Ⅲ-1. 起爆剤活用戦略（図2参照）

1. 起爆剤の種類を3種に分け、以下の様に定義する。

- A. **認知系起爆剤**：広く関連情報を伝えることを目的として使用されるもの。
- B. **教育系起爆剤**：情報のみを伝える“認知系起爆剤”とは異なり、主に教育目的で実施されるもの。
- C. **エンターテイメント系起爆剤**：一般国民に純粋に楽しんでもらうために実施されるもの。

* 具体的な起爆剤の内容については、Ⅲ-2.起爆剤具体案を参照。

2. 起爆剤の対象

効率的に「ちきゅう」及びIODPの普及をはかるため、上記各起爆剤を各層に応じ効果的に使用する。このため下記の様におおまかに対象を分類する。

第1次層：教育者（先生、学芸員など）、地球科学関連研究者、学生（高校生、大学生）

第2次層：学生（小学生、中学生）、その他関連科学研究者、科学・船に興味のある一般国民

第3次層：一般国民

3. 起爆剤の活用計画

- ・ 認知系起爆剤は、普及効果を図るため全ての層に継続的に使用する。
- ・ 第1次層（教育者、地球科学関連研究者、学生）には、主に教育系起爆剤を使用し、乗船者・研究者層の認知の拡大を図る。
- ・ 第2次層に関しては、教育系起爆剤により関心を高めると同時に、エンターテイメント系起爆剤も若干活用し、核となるサポーターの認知の拡大を図る。

- ・第3次層に関しては、全ての起爆剤を織りませ関心を引き出す。特に、認知系・エンターテイメント系起爆剤の活用により国民に広く認知を促し、結果的に科学的興味と結びつくようにする。

上記各層の関心の増加により、個々人の能動的な情報取得活動（Web アクセス）を促進する。

Ⅲ-2. 活用企画案

A. 認知系起爆剤

「ちきゅう」本体を使ったイベントなどを核として、主体的、能動的に一般国民への認知度を増大する。

1) イベント

「ちきゅう」の見学会を内外マスメディア関係者、教育関係者、一般国民に向けて、企画・実施する。併せてシンポジウムなどを開催し、交流を深め、本プロジェクトの理解者・賛同者を増やす機会を積極的に確保する。

2) TV、ラジオ、新聞、雑誌など、それぞれのメディアの特性を考慮しながら、広報素材の提供、研究者／関係者のインタビュー記事掲載や番組出演等の露出を増やすことにより、一般国民への浸透を図る。

B.教育系起爆剤

JAMSTEC・CDEX・J-DESC 間で緊密な連携のもと継続的・効果的な実施を目指す。各地の大学・科学館を通じて各地域の人へ丁寧な説明責任を果たす場として活用し、併せて地域・マスコミとも連携していく。

1) イベント

「ちきゅう」帰港地での船上大学、大学&科学館の乗船研究者確保に向けたキャンペーンなどの企画及び学会におけるブース展示への参加。

2) 普及教育素材

和英文の説明用ポスター、広報映像、記念品、ノベルティーなどを製作し、より分かりやすい説明に努める。将来的に「ちきゅう」コンテンツを利用した学習・教育系出版業界、子供向け産業界との連携も視野に入れる。

3) 教育現場の利用

各自治体の生涯教育の担当者、教育関係者、中学・高校の理科系担当教師などへの講演会・説明会を企画し、生徒・児童への説明者として養成する。

C.エンターテイメント系起爆剤

身近なところで「ちきゅう」を露出し、一般の国民から計画全体を応援する雰囲気醸し出す。出版業界、ゲーム業界などとも協力し、少年、少女への浸透を図る。「ちきゅう」本体を利用したマスメディアとのタイアップ企画も活用する。

IV. 初年度活動スケジュール

実施時期		2004年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2005年 1月	2月	3月	4月	
主 体	「ちきゅう」						建造									引渡し
	WEB トピック	キ体との双方向コミュニケーションを図れる場として展開 夏休み「ちきゅう」&地球相談室														
起 爆 剤	マスコミ															
	テレビ ラジオ	交渉			交渉			ON AIR 紹介番組			ON AIR 特集番組			ON AIR 特集番組		
	新聞 雑誌								取材				掲載		特集	
	イベント		大学+科学館 キャンペーン①		大学+科学館 キャンペーン②		大学+科学館 キャンペーン③									
学会			惑星学会		各学会（イタリ ア・フランス）		地質・地震学会				AGU (USA)					

(参考資料 1) イベントの一例：“ちきゅう”一般公開実施内容案

1. “ちきゅう”見学

(A)

- 1.1 グループ（10人～15人）を1単位とする。
2. 専属説明員1名が案内しながら説明を行い質問に答えながら船内ツアーを実施。
3. 10分おきの間隔で順次の内。
4. 導線は一方向とし、番号順に巡回。
5. スタート時は同時に各説明ポイントをスタートする。
6. 各ポイントに説明用パネルを用意。
7. 待機中のグループはテントの中でビデオ情報を閲覧
8. 説明員より諸注意事項を受ける。
9. 所要時間は1時間とする。
10. 終了したグループは写真撮影ポイント（グッズ販売）へ案内し、帰りのバス停で待機。

(B)

1. 船内各ポイントに係員、説明員が立ち
2. 見学者は決めれコースを順番に進む
3. 順次切れ目なく送り込む
4. 障害者・高齢者のみ、係員が引率し案内する。

2. 受付

- * 事前予約を受付で確認し、スタート時間に合わせグループ編成
- * 先着順に案内する。

3. 構成

- * 展示コーナー・映像コーナーを設置。
- * 受付横に救護/警備/事務局/マスコミ受付/グッズ/飲料コーナー/を設置。



警 備
医 療

展示テント
(映像)

待機
テント

写真撮影
コーナー

事務局

ドリンク・グッズ販売
各コーナー

トイレ

受 付

(参考資料 2) 教育系イベントの一例

IODP 大学&科学館キャンペーン (案)

1. 実施目的

- 若手研究者・学生に対して IODP 科学目標および科学計画の実施について説明し、IODP に対する理解を求めるとともに、将来 IODP 関連科学を支える研究者の育成につなげる。(2004年度は、大学・高校を実施対象とする。)
- 大学における IODP の普及広報を通じ、喫緊の課題である IODP 乗船研究者の確保を目指す(院生・教官に対し、広く乗船研究者への応募を求める)。
- 地元博物館・科学館において IODP を普及することにより、IODP の目標、地球深部探査船「ちきゅう」(JAMSTEC/CDEX の活動)、J-DESC の活動と大学のかかわり、各大学における IODP 関連研究者、などを広く地域の一般市民に理解していただき、“IODP サポーター”を増やす。(各大学と博物館・科学館、地域との連携を目指す)
- J-DESC 会員機関、地元博物館・科学館等を通じ、地元マスコミに本キャンペーンや IODP、地球深部探査船等を取り上げていただき、更なる IODP の普及に結びつける。

2. 実施時期・実施場所(予定)

- J-DESC 会員機関校を中心に、IODP に関心を持つ大学・高校で実施する。
- 2004年4月～6月に、全国5箇所での実施を目指す。
 - 第1回 九州大学、北九州市立自然史・歴史博物館(4月中旬実施予定)
 - 第2回 宇都宮大学、栃木県立博物館・栃木県子ども総合科学館(実施打診中)
 - その他候補地
岡山(岡山理科大学)、山形(山形大学)、秋田(秋田大学)、横浜(横浜国立大学)、沖縄(琉球大学)、岸和田高校、等々
- 必要に応じ、J-DESC を通じ、会員機関校から実施希望を募る。

3. 実施内容

- 以下の内容を“1セット”とする
 - ・大学（高校）における“出前講義”（IODP 説明・乗船研究者募集等）
 - ・博物館・科学館における一般向けイベント（パネル展示・市民講演会など）
- 大学（高校）1日（原則平日）、博物館・科学館1日（土休日）の2日間のプログラムを組む（金曜～土曜；日曜～月曜などに実施）。

4. 実施体制

- キャンペーン事務局
 - ・JAMSTEC/CDEX
 - ・J-DESC
- 当日の必要人員
 - ・CDEX より：広報責任者・スタッフ
 - ・J-DESC より：講師（1～2名）・事務局
 - ・各大学・高校より：必要に応じ、講師・スタッフ等を要請
- 作業分担
 - ・CDEX：総合調整・博物館との連絡窓口・マスコミ対応
 - ・J-DESC：大学（高校）との連絡窓口・講師の派遣・ロジ業務
 - ・各大学・高校：講師の派遣（必要な場合）・博物館調整・地元マスコミ対応

必要に応じ、実施大学（高校）、博物館・科学館に協力を求める

5. 関連活動

- 全国科学館連携協議会等への協力要請
- 国立科学博物館との連携（夏休みイベントへの参加など）
- 関連学会（地質学会など）との連携（地球科学系教員への普及）

6. その他

- キャンペーン実施にあたっては、博物館・科学館等と十分協議の上、要請があれば、展示物の貸し出し（数日～数週間程度）、特別展・常設展等への協力対応を行う。
- 本活動は、深海掘削委員会へ我が国の IODP 広報活動の一環として報告する。
- 実施状況を見て、キャンペーン第 2 弾の実施を検討する。